

かほく ワークシート

おじさん鑑

エッセイスト
飛鳥 圭介

デモの中で

この夏、国民の一人として「異議申し立て」の権利を行使するため、おじさんは国会を取り巻くデモに何度か参加した。

ある時、機動隊の交通規制により、横断歩道を渡れず、舗道上に人が膨れあがった。横断歩道の向こう側に渡りた人々が口々に抗議の声を上げた。

「なぜ渡らせないんだ」「向こう側の方がすいているじゃないか」



イラスト とよた かずひこ

機動隊は「デモの参加者の安全のためにご協力をお願いします」と街宣車で繰り返し、規制を解除しようとはしない。

その時、おじさんの後方からこんな怒鳴り声が何度か放たれた。

「ポリ公、帰れ！」「政府の番犬は道を空けろ！」

いくら興奮したとしても、これはない。

警察の過剰な警備に抗議をするのももちろん正当だ。しかし、警官に向かって彼らをおとしめる言葉に、何の意味があるのか。ヘイトスピーチと同質・同レベルというほかはない。

こういう罵声は、発言者の「下品さ」あるいは「差別意識」を表すだけ。警官に対し蔑称を怒号しても、権力に何の痛打も与えられないのだ。おじさんはひたすら悔しく、また悲しかった。

(2015年11月22日河北新報朝刊)

- ①この記事の中には、デモに参加する人たち（おじさんも参加していた）のほか、交通規制をしている人たちが登場します。それは、どのような人たちですか。
- ②「ポリ公、帰れ！」「政府の番犬は道を空けろ！」のような言葉を「おじさん（飛鳥圭介さん）」はどのように感じているのですか。
- ③「おじさんはひたすら悔しく、また悲しかった」と言っていますが、それはなぜですか。

年 組 名前

(小学校高学年～高校／朝の会前10～15分)